

琉大の特許 初めて民間移転

日進が製品開発へ

風力発電制御と電力貯蔵技術

特許権移転などのライセンス手続き事業を手掛ける沖縄TLO（金城清社長）は二十日、琉球大学が所有する二つの特許を日進（津嘉山貞雄社長）へ技術移転することを県庁で発表した。大学と民間企業が製品を共同開発した事例はこれまでもあったが、大学が持つ特許技術を民間企業に移転するのは県内で初めて。今後の産官連携のさらなる推進や産業開発への波及も期待される。

街路灯などに応用

移転された技術は風力発電用風車の回転翼の角度を変え、風の強弱を調整することで、発電量を安定化させる「風力発電機の発電電力の平準化を可能にするピッチ角制御装置」と、発電された電力を従来よりも多量で安定的に貯蔵できる「電流型インバータのPWM制御とPWM信号発生装置およびこれらを用いた電力貯蔵装置」の二つ。

日進は今後、これらの技術を応用し、蓄電器を太陽光発電型LED街路灯（既存）に内蔵したり、風力発電を利用した屋外設置用LEDビジョンの開発などを予定している。

津嘉山社長は高い位置にある街路灯に蓄電器を内蔵することで、台風時の浸水による蓄電器故障を防げると意義を強調。

「沖縄の環境に適応した製品を沖縄で開発する。LEDは蛍光灯に比べ消費電力も少ないので、地球温暖化の防止にもなる」と意気込んだ。



街路灯を示し開発構想を語る

津嘉山貞雄日進社長（右）。

左は宮里大八沖縄TLO取締役事業部長。20日、県庁